



樽病だより

こころ

第2巻 第1号
発行日
平成19年2月
小樽病院広報委員会
電話25-1211

看護部の目指すところ

総看護師長 的場 由紀子

昨年4月に着任して、はや1年になるうとしています。病院の第一印象は「古めかしく暗い病院」でした。しかし、そこである一人の看護師の姿が目に入りました。来院された患者さまから名前まで呼んでいただき、「あ、会いたかった」と言葉を掛けていただいている場面でした。その看護師は「帰っていかがですか？」と視線を合わせるためにかがみ込み、そのしぐさは温かさがにじみ出ていました。「ここで4月から働くのか」と安心を覚えたのを思い出します。

看護の基本は、「人に対する関心」と「共感できる心」と思います。患者さまの「痛い思い」を自分の身に引き寄せて感じて、何とかしたいと心くだき対処する・・・その思いが大事なことと思っています。

昨年10月ごろから、入院患者さまに対する看護体制として「受け持ち制」を開始しました。入院から退院まで患者さまの立場に立って、一緒に考える、そして看護を提供する責任を明らかにしていこうと始めました。もちろん夜勤もあるので、実際のケアが一人の看護師ですべてできることではありません。入院中せめて「私の受け持ちの患者さま」と意識して看護することで、「自分の身に引き寄せて」看護できればと考えました。看護師からは「名前で呼ばれることが多くなった」「患者さまの記録が細やかになった」など感想が出てきています。

これから地域の皆様の信頼に応えられる市立小樽病院看護部であり続けたいと思っております。ご支援くださいませ。



健康のはなし

前立腺のお話

前立腺とはぼうこうのすぐ下にある男性にしかない臓器で精液の一部を産生しています。尿道を取り囲むように存在するため大きくなると、おしっこが近くなったり、おしっこの勢いがなくなったり、おしっこに行ってもすぐに出ない、おしっこに時間がかかる、おしっこを最後まで残った感じがするなどの症状が出てきます。これが高齢男性に多い前立腺肥大症という男性の宿命ともいえる病気です。治療には主に圧迫された尿道の通りをよくするくすりが使われます。くすりで改善のみられない場合や重症例では手術治療が行われます。尿道から行う内視鏡手術が主流で、当院では10日から2週間くらいの入院で行っています。

一方、前立腺がんも高齢男性に多い病気で欧米では男性がん死の数で肺がんについて第2位の原因になっており、わが国でも急速に

市立小樽病院基本理念

優しさと思いやり

- ・ 市民に信頼され、満足していただける、安全な病院を目指します
- ・ 市立病院としての誇りを持ち、地域に貢献できる病院を目指します
- ・ 患者さまと私たちが勇気と希望を共有できる病院を目指します

増加しています。前立腺肥大症とは別の病気であり、進行して骨への転移を起こすと痛みの原因になります。前立腺肥大症に比べ症状の少ないことも多く、その意味でも50歳以上の男性で検診の重要性が高い病気です。検診には前立腺特異抗原(PSA)の血液検査が有用で、超音波検査と直腸からの触診所見とあわせて疑いのある場合は、短期入院の上、前立腺に針を刺して一部をとり病理検査が行われます。PSA検査は一般の病院でも可能ですので泌尿器科あるいは、かかりつけの医院で相談してみてください。

(泌尿器科 信野祐一郎)

「水を使わない現像」

皆さん一度は検査したことがあるレントゲン写真で出来る上がるフィルムは、現在でも一般的に「現像する」と表現しています。これはX線撮影用のフィルムも普通の写真と同じく暗室で「現像液」「定着液」「水洗」「乾燥」の順番で処理していたことからこのように表現されています。当院でも数年前までは「自動現像機」という装置で液体を使用した現像を行っていました。（現在も一部使用しています。）



ところで皆さんが家庭で写す写真は現在どのようなようになっていくのでしょうか？ミリフィルムカメラからデジタルカメラの時代になっていきます。つまりフィルムを現像しネガフィルムとし、ネガを透過した光で印画紙を感光させ、さらにこれを現像してはじめて写真として見る事ができた時代から、撮影した画像をデジタルデータとして記録媒体に保存し、その場で画像確認し、必要なデータのみを「プリンター」にてプリントするようになってきました。実はX線撮影の世界にも同じことが起きています。その名を「デジタルラジオグラフィ」といいます。つまり液体を使用した「現像」からプリンターでの「プリント」をしているのです。ただ習慣とは恐ろしいもので専門家たる技師でも「現像」というので

聞き耳

診察中に「写真はソクゲンで」と言っていることがあります。「即現」とは即時現像の略で病院では一般的に使用されています。

これからは「即プリ」か? :

(放射線科 主任診療放射線技師 阿部俊男)

新築準備室より

基本設計について

現在、準備室では、新病院基本設計の委託業務を発注するため、作業を進めており、3月下旬には設計者が決定し、いよいよ新病院の建設に向けた具体的な業務のスタートとなります。

基本設計は、これまでに策定した基本構想などで文字として表現されていた病院建物の規模や機能を図面という形で明かにするもので、病院を構成する各部屋の配置や大きさをはじめ、照明器具やコンセントなどそれぞれの部屋に取りつけられる設備の位置についても決定していく大変重要な業務です。

病院は、人、物品、情報の流れが相互の関係性をもって大変複雑になっているため、まずこれらを把握し、建物全体のあり方を検討していくことが必要です。また、医療機器や機材等の設置を前提とした人の動線やスペースの確保が必要とされますし、隣り合う部屋との関連などにも十分注意しなければなりません。

小樽病院ロゴマークができました



ロゴマークは Otaru Municipal Hospital の頭文字 O M H を図案化しています。中心に配置した「h」は hospital(病院)と heart(心)を意味して、heart を包み込んで、基本理念の『優しさと思いやり』を表現しています。

患者満足度調査から (看護部)

当院の看護サービスについて患者さまがどのような評価をされているかを知り、今後の改善につなげていくことを目的に患者さまにアンケート調査をさせていただきました。2006年9月4日(月)～9月8日(金)の5日間で外来患者さま898名、入院患者さま193名合わせて1091名の方に答えていただきました。ご協力ありがとうございました。集計結果をお知らせします。

患者満足度集計結果

アンケートの質問ごとに、回答内容で
 「満足」 = 5点
 「やや満足」 = 4点
 「普通」 = 3点
 「やや不満」 = 2点
 「不満」 = 1点
 「わからない」 = 0点
 として換算し、平均を算出しました。

項目	質問	病棟	外来
1	看護師は話しやすい雰囲気でしたか	4.45	4.40
2	看護師の言葉遣いや態度はいかがでしたか	4.41	4.45
3	ナースコールを押したときの対応は、いかがでしたか	3.81	3.98
4	看護師の説明は、わかりやすかったですか	4.07	4.29
5	看護師の身だしなみはいかがでしたか	4.18	4.25
6	看護師は、痛みや苦痛があることを理解して対応していましたか	4.13	3.71
7	看護師の行う処置・介助は、手早く確実にできていましたか	3.90	3.74
8	看護師は、患者さまのプライバシーに配慮していましたか	3.95	3.64
9	看護師同士の連絡は、取れていると思いましたが	3.87	3.77
10	看護師と医師との連絡は、取れていると思いましたが	3.98	3.83
11	病室内は整理整頓され、ベッドの回りはいつも清潔に整えられていますか	4.12	
12	あなたの家族にも看護師は気配りをしていますか	4.02	
満足度平均点		4.07	4.01

点数が4.00以下になっている項目について各外来、各病棟で何が足りなかったのか、今後どうしていくのか話し合いをしました。

病棟で一番低い点数となった項目3の「ナースコールを押したときの対応は、いかがでしたか」については、今後の対応として「ただいま伺います」と応答し、すみやかに訪室する。お待たせした時は「お待たせしてすみません」と謝罪するなどを実践していきます。

項目9の「看護師同士の連絡は、取れていると思いましたが」の対応については「同じことを何度も尋ねたり、頼まれた事が抜けたりしない」ように看護師同士の連絡を密にしていくように心がけていきます。

外来で一番低い点数となった項目8の「看護師は、患者さまのプライバシーに配慮していましたか」については設備上難しい部分がありますが、「声の大きさ」「周囲への配慮」などに気をつけて対応します。

項目6の「看護師は、痛みや苦痛があることを理解して対応していましたか」についての対応は待ち時間をできるだけ少なくするよう工夫すること、お待たせしている患者さんへの声がけを多くするなど、の気配りを十分にしていきたいと思えます。

これを踏まえて、日々努力を重ね実践した結果、改善されたのかどうかにつきまして、再度、アンケート調査を実施したいと考えています。ご面倒おかけしますが、ご協力よろしく願います。

樽病だより「こころ」

発行
市立小樽病院
編集
市立小樽病院広報委員会

発行は
6月の予定
です